

第3回 長野市環境審議会 会議要録

日時 平成21年9月2日(水)
14時から16時30分まで
場所 長野市役所 第1庁舎3階 会議室1

出席者

<委員> 11人(特別委員1人含む)

<事務局> 7人

1 開会

2 あいさつ

3 審議事項

(1) 「大切にしたい長野市の自然」改訂版の中間報告について

<市>

(資料1-1の組み立てについて説明)

<委員>

大切にしたい長野市の自然は平成15年3月に作成した。ミレニアム事業としてまとめたもの。その後、豊野、戸隠、鬼無里、大岡と合併して市域が広がったため、作り直すもの。信州新町、中条村はこれから合併するので最終的にはその部分も含めて作り直す。今回は中間報告として報告する。

1ページ目からは市域拡大に伴う改訂についてで、前回分を踏襲するもの。国や県ではRDBがあり、希少動植物を掲載しているが、いくら大事と言ってもこれらは実際ほとんど見ることができない。この「大切にしたい長野市の自然」は従来のRDBと考え方が違い、かつては普通に見られたのに、最近見られなくなったものをまとめたもので、全国的にも刺激を与えたもの。環境アセスメントを実施する際にもかなり参考になる資料であるため、なくならないようにしたい。

各メンバーがそれぞれ分野で調査した結果をまとめており、戸隠域などは新たにメンバーを加えて選定を実施している。調査項目は動物、植物、地形のほか、人と自然の関係という項目も作られている。

資料4ページには部会開催内容、6ページには改訂版の一次候補の抽出とそれに伴う調査を掲載している。人と自然の関係とは山菜やキノコなどといった他とは違った拾い出し方をしているものになる。動植物以外の地域としては、景観的に美しいもの(棚田や飯綱の植生豊かな部分)がある。

今後の作業として、22年度に信州新町、中条村の資料収集、現地調査、種の拾い出しを行う。新しく加わる地域は自然豊かで、旧長野市部分は見劣りするので削ってはどうかという意見もあるが、基本的には今までのものに追加していく。

資料の後ろには今までの会議録、改訂版のイメージがある。それぞれの所在地の表記の仕方については、細かく記載すると採取されてしまう恐れもあり、かといって大雑把過ぎるとアセスの際などに開発業者にどこに何があるかわからなくなってしまうため、市域を6ブロックに分けて記載している。豊野、戸隠、鬼無里、大岡などは旧町村というイメージ。

<市>

(資料1-2に基づき、21年度から24年度までの作成スケジュールを説明)

以下質疑

< 委員 >

24 年度に印刷となるが、それまでにかなり調査がある。項目の取捨選択は統計的でなく調査員の感覚的なものとのことで難しいと思うが、植物などは季節的な面もあるが、24 年度までに取りまとめるといふ期間に問題はないのか。

< 委員 >

国でも県でも RDB を作成する際にどのくらいの期間調査するというものはなく定量的に把握しているわけでもない。専門家が考えてやっている。「大切にしたい長野市の自然」に関しては市に詳しい方が参加しており、その方々の経験を活かしてやっていくことになる。

< 委員 >

項目の取捨選択は、ただ単に項目を減らすのではなく、現状から重みを付けてそこから抽出するというので、市民向けの目線をお願いしたい。

< 委員 >

改訂版候補リストの湧水の削除については削除理由が記載されていない。どのような経緯で候補から外されたのかわからないので記載したほうがよいのでは。

< 委員 >

住民が飲料水に使用していて公表してほしくないこと、以前は水が湧いていたが今は湧かなくなったことなどの事情があり、理由がつけられなかったもの。

< 委員 >

そのような事情があれば、そのような言葉で補っていただきたい。

< 委員 >

最近見られなくなった種について、今のうちになんとかしようという考えで作成しているというのでよいか。

< 委員 >

環境アセスメントなどで事業者が調査をするときに、保全対象を抽出する。通常、国や県の RDB を参考にすが、市で実施する場合は「大切にしたい長野市の自然」の種が全部保全対象となる。環境を悪くさせないための大事な資料の意味もある。

市民の方にも知ってもらいたいということから、フィールド版（やや小さいもの）も作成している。

< 委員 >

対象種が 20～30 年とかの将来的に少なくなったか多くなったかを見るためには定量的データの増減で見る必要があると思うが、どのように考えているのか。

< 委員 >

モニタリングサイトのやり方のように、どこに何がどのくらいあるかというやり方はある。国は最近モニタリングサイトを実施しているが、市で実施するのはかなり大変だと思われる。今の対象を定量的に増減したと考えるのは難しく、採取データや標本を持っている方が参加してくれている状況である。この標本などを残しておき、20～30 年後に利用する方法も考えられる。

< 委員 >

ぜひ実施してほしい。そのためにはデータを管理する部署も必要になり、標本やデータを化石館などに残してはどうだろうか。

< 委員 >

今後検討し、博物館などと話をしていきたい。

(2) 長野市環境基本計画後期計画の計画期間の延長について

< 市 >

(資料 2 の説明)

以下質疑

< 委員 >

23年度の目標設定はいつになるのか。

<市>

22年度に設定する。

<委員>

目標値や項目は審議会で決定するのか。

<市>

庁内で調整後、審議会へ報告する形になる。

<委員>

最終目標が変わると認識してよいのか。

<市>

この後、白書の部分でも説明するが、指標項目についても検討していきたい。

(3)平成20年度長野市環境施策の実施状況について

<市>

(資料3の説明)

以下質疑

<委員>

(環境マネジメントシステムの実施状況部分の)環境目標の比率など達成度がわからない。また、資料のつくりとして、実績を見るのにいろいろなページを見ないといけないのはわかりづらい。

<市>

来年度は改善して作成したい。

<委員>

7～9ページの平成20年度数値が不明というのはどういう意味か。おおまかな数値しかわからないという意味なのか、あるいは全く把握していないということか。

<市>

目標は設定しているものの、把握の仕方が困難であり不明としているものになる。

<委員>

グリーンエネルギー自動車台数は、登録台数を調べれば把握できると思われる。また把握の仕方が困難ということであれば、注釈をつけるなどしないと、何もしていないように受け取られかねない。

<委員>

間伐林の20年度目標未達成だった理由あるいは対応はあるか。あわせてコピー使用量が目標未達成の対応などはあるか。

<市>

コピー使用量に関して、今年度から部長会議など会議室1での会議は、基本的に紙資料ではなくPCで資料を見ることとしており、紙資源の削減に努めている。これに伴い、コピー使用量の削減に努めている。

<市>

間伐林の面積については、20年度に新たに里山集約事業に着手しており、目標設定時にこれを考慮しなかったため、目標を達成できなかったもの。なお、基本計画後期計画に基づく目標値はすでに達成している。

<委員>

剪定枝のごみや、プラ(容リプラ以外を含む一般的プラ)処理の方向性はどうか。
資料23ページに水生生物から判定した河川の水質があるが、BOD、ECも追加すると、本当に水質が良いかがわかる。また、BOD、ECを測定することで、水生生物がいると本当に水質が良いといえるかどうかを検証できると思われる。

<市>

剪定枝の件については、現在は可燃ごみだが、10月1日から分別してリサイクルが始まる。プ

ラについてはさらに分別の精度を高めて、可燃ごみを減らしていく。容り法以外のプラはそのまま可燃などとなる。

<委員>

熱効率を考慮すると、分別しない方法もあるかと思うが。

<委員>

将来的には CO2 換算で分別した方が良いか、しない方が良いかという考え方により効果のある方を選ぶこともあると思うが、今のごみ削減は CO2 削減の観点でなく、総量を減らそうというものである。

<委員>

委員のいうプラが一般的なビニール袋のことならば、現在、長野市では容り法に基づきプラとして分別回収をしている。

<委員>

プラ全般という考え方でいくと、再生不可能なものもあるし、再生できても費用がものすごくかかるものがある。現在家庭ごみから出るものは多くがビニール袋など PP (ポリプロピレン) や PE (ポリエチレン) が原料になっており、容り法の対象として分別しリサイクルされている。その他プラとして、カセットテープの箱やハブラシの柄などはほとんど再生不可能である。細分化して燃やすのが現状。ビニール袋のリサイクル工場もフル稼働している。PET は再 PET や手袋などになる。ストローなどは溶かしてコンテナや公園のベンチなどに再生されている。分別し、市の容りプラが増えれば可燃ごみは減る。費用対効果的には、その他プラの再生は向いていない。

<委員>

委員の質問は、現在黄色のゴミ袋で収集しているプラは再生されていないのではという趣旨かと思うが、再生されているか。

<委員>

プラを燃やしているなどいろいろな報道はあるが、長野市から出ているものはリサイクルされている。

<市>

水生生物による水質測定については、5 年に 1 度のスパンで業者委託により調査をしている。もちろん BOD など調査しており、環境教育にも利用している。データを白書に載せることはできる。BOD、SSなどは日々変化するものだが、水生生物は長いスパンで見ることができる。

<委員>

BOD と EC も載せていただけるならば、見やすくなるのでお願いしたい。

<委員>

13 ページのリサイクル率のデータで、23.6%は 16 年度か 17 年度どちらか。本文と表の数値が異なっている。また 7 ページのリサイクル率の基準値の表記方法は 21.00%となっているが、他の数値と表記を統一したほうが良い。

<市>

13 ページのデータについては 17 年度が正しい。7 ページの表記は統一したい。

<委員>

9 ページの温室効果ガス排出量は 17 年度数値となっているが、その後の数値はどうなっているか。一番関心のあるデータかと思われるが。

<市>

本日は地球温暖化対策室長が欠席のため、確認して回答したい。

<委員>

7、11 ページに記載されている市民一人あたりの家庭系一般廃棄物の可燃ごみ量は 179 k g かそれとも 181 k g か。どちらが正しいのか。

<市>

ここではわからないため、確認して回答したい。

<委員>

白書を作成する目的は、事実をお知らせすることか。それとも、目標を達成しているもの、達

成できなさそうなものがあるが、白書ではもう一步突っ込んで、このままでは目標を達成できないだろうものについて審議しなければいけないのか。その場合は、この程度の審議ではとても足りない。

<市>

まず事実をお知らせするもの。

<委員>

生ごみは減っていない。事業所でも一生懸命やっているところは認定し、PRしてはどうか。雨水貯留施設設置基数が目標未達成だった理由はあるか。

<市>

生ごみを含めての減量になるが、ご家庭でも協力いただき、家庭ごみ及び事業ごみも全体的には減少している。生ごみは分別していないため、生ごみ全体で減っているかは難しい。これに対しては生ごみ処理機の補助金も出しており、かなりの金額となっている。引き続き、いろいろな方策をとっていきたい。

事業所については、一定の取組をしている事業所は、エコサークルとして認定している。もう少しPRできればよいかと考えている。

<市>

雨水貯留施設設置基数については、県の補助金が中止になり前年度は駆け込み需要により目標が達成できたものだが、そういった要因がなくなったことにより未達成になったもの。前年度が多すぎたというもの。

<委員>

7～9ページの担当課は機構改革前の所属になっている。現在はどの所属というのを記載した方が良いか。

<市>

HP掲載に向けては改善したい。

(4) その他

前回審議会以降の温暖化対策地域推進計画の進行状況について課長から説明

4 閉会

「大切にしたい長野市の自然」配付希望の委員には後日送付。